



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 27 年 8 月 9 日・30 日(日)

上町自主防災組織訓練 編

8 月 9 日 11 回目の「安否確認訓練」

8 月 10 日、日曜日の夜、自治会の安否確認訓練が行われました。初めての夜間訓練であること、また、高齢者世帯が増えていることなどについて配慮しながら実施されたのですが、訓練は非常にスムーズに行われ、昼間の訓練とほぼ同様の良好な結果(安否確認の集約数など)を得ることができました。日曜日の夜にもかかわらず、自治会員の方々の防災に対する気配りが集まった訓練でした。

自主防災訓練の中で、私たちが最も重視して続けてきたものが災害直後の「安否確認」の訓練です。「上町方式」とでも呼んでいいこの訓練には、2 つの大きな特徴があります。その一つが、訓練の前に入念に「事前準備」を行っていることです。訓練そのものは、いつも短時間で終わりますが、訓練の前には、防災関係の役員が集まり、各「防災ブロック」ごとに、その世帯数や家族構成の変化を点検し、ブロック内の安否確認の具体的な手順を決めて訓練に入ります。

今年は、初めての夜間での安否確認訓練を実施するために、全世帯へのアンケート(高齢化の進行に伴う防災組織の見直しと高齢者の夜間の状況を把握するため)の取りまとめを含めて、3 回の役員会を行って本番に臨んでいます。この丁寧な事前の準備が、訓練の成否を決めているだけでなく、実際に災害が起こった場合に役立つものと考えられます。

2 つ目の特徴は、近所同士の 5~10 世帯ごとにまとめられた防災ブロックという「小さな組織」が単位となって、自治会の防災体制が組み立てられており、安否確認訓練もまた、各ブロックごとに行われ、集約されていることです。日ごろ挨拶をかわし、言葉をかけ合い、ゴミを出し合う間柄、この日常の近所同士のつきあいが、私たちの「自主防災」の土台となっているということです。昔から、「声が届き、お互いの表情が分かる距離」が非常に大切で、イザという時に助け合える範囲であるともいわれます。いつ起こるか分からない災害のために地域があるのではなく、地域の、自治会の、さまざまな日常活動、各種の行事への取り組みなどが「つながり」を強め、「根っ子」となって、それが災害に備える力となるのだと思います。



事前アンケートで訓練の参加意思を確認し、その結果に基づいてブロック長が担当世帯を回りました。



初めての夜間訓練。誘導灯や暗闇でも光るたすき、蛍光テープも用意しました。これからは、夜の活動も想定して装備を整えていきたいですね。



懐中電灯やヘッドライトで手元を照らしながら、サンピノの屋外でブロックごとの安否確認の結果を集計しました。両手が使えるヘッドライトは便利です。



最後はサンピノのホールに集合しました。避難してきたあとはどうするのか。昨年のサンピノ自治会との合同ワークショップの結果をふまえて、より実用性の高い訓練を継続していきたいですね。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

自治会の高齢化が進んでいます。全戸から協力をいただいたアンケートの結果によると、私たちの自治会は5年後には65歳以上の高齢者が60%を超すという「超高齢自治会」になります。これに備えて、防災の組織体制もまた、高齢者同士が支え合う「老老共助」のしくみに整えることが急がれます。そのためにも、実際に災害が起きた時に私たちができることとして、安否確認の訓練を重視し、さらに改良を重ね、現実に即したものにしていける必要があります。

今年も、いろいろなことを考えさせられた安否確認訓練でした。

文：上町自治会副会長 相澤 紘一

8月30日 防災セミナー被災食作り

今年の被災食は、今話題の「おにぎらず」を作りました。炊飯の方法はいつものハイゼックスシートを使ったものと、ビニール袋を使ったものの2種類です。参加者を4班に分けて各班白米4本、おかゆ1本、ビニール袋1個を定量の米と水を入れ口をきっちりとゴムでとめて、お湯（飲み水以外の水でもOK）が入った大鍋に入れて30分煮て、20分蒸らせば完成です。

この間に、ドコモ社員の方から災害伝言版についての説明を聞き、実際にケータイを使っての利用方法を教わりました。ですが、高齢の自分にとっては操作方法を理解するのはなかなか難しく、もう少し手順が簡単なら有難いなと思いました。

講習の後は全員そろっての試食会です。各班で大きめのボールにご飯をあけてよくほぐし、ラップをした上に板のりをしきその上にご飯をうすく敷きつめ、好みの具（会員たちが自宅から持ち寄ったふりかけ、うめぼし、納豆、鮭フレーク、漬物、レトルトカレー、味みそなど）を芯にしてくるくる巻いて、できあがり。「おにぎらず」を作っている間は、いろいろな包み方や意見が出て大いに盛り上がりました。

ちなみに、どこのご家庭にもあるビニール袋のご飯も上々の出来でした。ビニール袋を使っては肉じゃがやカレーなどのおかずも作れるとのこと、来年はご飯のほかにそういった副菜づくりを皆で挑戦してみたいと思っています。

文：上町すみれ会 相澤 レイ子



すみれ会・会長の平山さんの説明で、参加者全員が炊飯袋を使った被災食づくりを行いました。



炊飯袋でもビニール袋でもじょうずにご飯が炊けることに、初めての参加者はびっくり！好みの具材をのせて作る「おにぎらず」は大好評でした。災害時に「温かいもの」を「みんな」で「おいしく」食べることはとても重要です。これまでのノウハウを伝えていけたらいいですね。



地震に限らず全国各地で色々な災害が発生している昨今、どこで被災者になるかわかりません。色々な防災訓練や防災セミナーで見聞きする「災害用伝言版」。災害時によく使われていることはわかっていても、実際に自分や家族が使えなければ意味がありません。



榊ドコモCS東北秋田支店の細川さん・三浦さん・岩間さんが講師をつとめて下さいました。「知っているのと出来るのは違う」を参加者全員が実感。発信者だけが使えても相手には届きません。この日の体験を無駄にせず、毎月の無料体験日に家族や自治会で練習を続けて、いざという時に使えるようになりたいですね。